

カイコの飼育

《6月》5歳児がカイコの飼育を始めました。



えー?! ちっちゃいねえ。ほんとに卵なの??

はじめは1ミリもない小さな白い卵が、孵化する間際になると、少しずつ黒くなってカイコが生まれています。

めっちゃ、ちっちゃい。
つぶつぶ。



そーっと そーっと やさしくね。ごはんいっぱい食べて大きくなってね

カイコが小さい時は、手で触ると火傷をして死んでしまうので、餌やりはスプーンを使っています。また小さい間は、餌は桑の葉でつくられた人工飼料をあげています。



おっきくなってきてるー! 大事な命、優しく触ろうね。

カイコ フワフワしてる。触るの怖くないよ。



カイコが大きくなり、園庭の桑の木の葉を取って餌やりをします。葉を食べる様子を静かに見ていると「シャクシャク」という葉を食べる音が聞こえてきます。また、日に日にカイコへのいたわりの気持ちが芽生え、友達と協力して育てることを喜び、充実感を味わっています。



《7月》カイコが繭をつくり始めました。



カイコが繭になって嬉しいけど、なんだか寂しい。

繭ができてるよ！フワフワでツルツルしてる。



カイコさん どこいった？
真っ白だね。

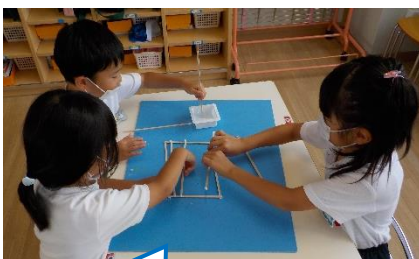


カイコを育てる道具「まぶし」を見たり昔から伝わる
伝統文化に興味や関心を示
したりしていました。

カイコの口から出る、一本の細い絹糸が
幾重にも重なり、繭になりました。カイコ
は成虫になって蛾になると餌を食べられ
ず、1週間経つと死んでしまいます。



昔はカイコさんの命をいただいて洋服などをつくっていたことを伝え、先生と子ども達みんなで、繭をどうしていくか何度も話し合いました。感染症が広がっている今の時代だからこそ、みんなの命や元気な体を守っていききたいという思いとカイコの命の証や感謝の気持ちを形にのこせるように願いを込めて、マスクをつくることにしました。



マスクの土台をつくったよ。カイコさん糸を巻き付けてくれるかな？



すごい！マスクになって
きてる！



卵から育てたカイコ。日々変化していく様子を見て、「最初は黒かったよね」「模様がでてきたよ」とグループで共同し気付いたことや感じたことを絵にかいて成長がよくわかるようにしました。